

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700109		
法人名	社会福祉法人 本郷福祉会		
事業所名	グループホーム ゆすら		
所在地	福岡県みやま市瀬高町本郷2036番地1 (電話) 0944-63-2122		
自己評価作成日	平成 29 年 12 月 18 日	評価結果確定日	平成 30 年 2 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御本人の生活習慣を大切にし、今まで続けて来られた事を入所後も継続出来るよう支援をしています。一日の大きな流れはありますが入浴時間や回数も可能な範囲内で御本人のペースで生活して頂けるように心掛けています。屋内活動では、手芸・ゲーム・体操、軽スポーツ・書道・ぬり絵や写生・料理の下ごしらえやおやつ作り、季節ごとのイベントや誕生会、花火大会鑑賞など多彩な活動を取り入れています。屋外活動では、敷地内で野菜や花の家庭菜園を行い、天候に合わせて園外散歩、買い物や季節にちなんだ催し物へのドライブ、地域の健康教室への参加など積極的に出かけています。敬老祭で、保育園児をお招きし、楽しいひとときを過ごすことができました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 30 年 1 月 16 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園広がる自然豊かな道路沿いに位置し、重厚な瓦屋根が目立つ大きな和風平屋建て、4年目の新しい1ユニットの事業所である。事業所リビングは、天井高く明るい大広間で、厨房を中心に各々の居室があり、人の動きを見渡せるよう設計されている。事業理念に「利用者が主人公」「出来ることは自分で役割を見つけ」とあり、食事後のテーブル拭きなど利用者自らの実践能力が活かされている。全職員はケアに重要な5項目の理念を掲げ、意識の統一を共有し、安心できる質の高いケアと地域貢献を目指している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1、継続と共生 2、自立と自信 3、安心と安全 4、自己で決定 5、地域と交流の5つを元にスタッフの意識を統一、共有して日々実践に繋がるように心掛けている。	開設時から事業所独自の理念を作り上げている。「住み慣れた地域で人と触れ合う暮らし」を掲げ、ミーティングでは5項目の理念を掘り下げ全職員で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図り、一人ひとりのニーズやペースに合わせて、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりが途切れないように、年2回の河川浄化や班内の冠婚葬祭については、連絡を頂くようお願いしている。民生委員の方より地域の健康体操へお誘いがあり、楽しいひとときを、過ごすことができました。	事業所便りを年4回発行している。家族や運営推進会議で渡している。地域で行われる年2回の河川浄化、公民館主催の健康教室に利用者と一緒に参加している。チューリップの球根を貰ったり、地域の一員としての日常的交流を深めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の健康教室へ参加する事により、認知症を誤解する事なく、正しく理解して頂けるように心掛けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行い、区長・民生委員・老人クラブ会長・市役所・家族代表・入居者代表より参加して頂いている。事業所からの報告（年4回発行、ゆすら通信も含む）などを行い、意見を頂いている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。事業所から利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、委員から意見・要望・質問などをもらっている。入居要件に関する質問や近隣の道路利用の際に安全を考えたことなどサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議（2ヶ月毎）に参加して頂き、報告を行っている。みやま市地域密着型サービス事業者連絡協議会、柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会、多職種連携会議（共に不定期開催）に参加し、情報交換を行い協力関係を築けるように努めている。	行政主催の、みやま市、柳川市地域密着型サービスの連絡協議会の呼びかけに参加し、情報交換を行っている。運営に対する相談があれば行政窓口に行き、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを全職員心掛け、些細なことで職員同士で確認を行うようにしている。玄関の自動ドアや出入り口戸には、他者対応中でも気づけるように鈴をつけ対応をおこなっている。	身体拘束について、重要事項説明書に明文化している。全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がらないよう、些細な事でも職員同士注意しあうように心掛けている。今後も学ぶ機会を持ち理解を深めたい。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び内部研修を行い理解を深めるように努めている。6月に成年後見制度を利用されている方が入所となり、学ぶ機会を持ち理解出来るよう努めている。	権利擁護に関する制度については、パンフレットを用意し、利用者・家族には契約時に説明している。全職員は内部・外部研修を受講している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、パンフレットの料金表を見て頂きながら、介護保険自己負担額と生活関連費および他個別でかかる料金（個室で使用されるテレビ・電気毛布等）の説明を行っています。その後に必ず不安なことや疑問がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と日常的に関わる中で表情の変化に気づき、会話をする機会を持ち要望をくみ取ることが出来るようように心掛け、朝夕の申し送り時などに些細な変化も申し送るようにしています。御家族様面会時には、必ず昼夜の様子や対応の報告と共に意見、要望も尋ねている。	日常の関わりの中で、利用者の声を聴き一人ひとりの思いや要望の声に耳を傾け、その把握に努めている。利用者の「誰か外に行く人いるね？」買い物の要望には即応えるようにしている。家族の訪問時には状況など積極的に報告している。小さな事でもノートに書き留めそれらを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回の職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、実施可能なものから反映させている。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。職員は日常的に運営に対する意見や提案、研修受講、勤務に対する希望など言いやすい職場環境にある。月1回の職員会議では法人運営者共に、利用者ケアの統一、情報の共有、必要備品の購入など受け入れてもらい、働く意欲の向上や質の確保につながっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう給与の見直しをはじめ、職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにし、定年を延長する等労働条件の改善にも取り組んでいる。	採用選考では、人柄や、適性・人間性を重視し性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。職員各自の能力を活かし意欲を持って働ける職場環境を目指し、研修の参加、スキルアップに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	御入居者様に対する人権を尊重するために、外部研修に参加し伝達講習で職員に周知し、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	事業所は全職員に対し、外部・内部研修で人権教育について学ぶ機会を設けている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人1人のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を積極的に受け知識を共有することにより技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス事業者連絡会に加盟し管理者や職員が同業者と交流する機会を積極的に作り、研修会や情報交換を行っている。日本認知症グループホーム協会に加入している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様には、御本人様が施設への入所を一時的でも理解納得されているかを尋ね、入所後も御家族様の受け入れがあれば外出・外泊が可能であることを説明している。現在入所されている同年代の方々と会話をもつ時間を設け、緊張を解かれ安心して生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が困っている事や大変な事、悩み事を傾聴し、そのうえで、家族の思いや要望を聞き出せる和やかな雰囲気作りを心掛け、良い関係づくりに努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、傾聴を心掛け、満床時には待つて頂かなければならないので相談内容によって、同じ関連施設のデイサービス及び住宅型有料老人ホームへ問い合わせをしたり、老人保健施設や特養、小規模多機能施設の紹介や市の介護保険課へ行かれることをうながしたりして色々な選択肢があることを説明しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で自ら気づかれ行動出来る様に、食事準備・掃除・洗濯物干し、たみ等日常生活のながれを自然な声掛けを行い助け合う関係を心掛け努めています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子や行事等を御家族様へ担当者からのお手紙などで知らせ、面会時には、詳しく日頃の様子を報告している。日曜日のお弁当持参での面会、週末や祭日に自宅の畑で苗植えや収穫など、園内での一緒の時間や家族との外出を大切に、家族と共に支え合う関係を築けるように努めています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様やご友人の来園やお食事のお誘いはとても喜ばれ心待ちにしておられることを感じます。大切な繋がりが途切れないように、ゆっくりと過ごして頂けるような雰囲気作り、電話の取次ぎや年賀状を出されるように勧めたり等、支援に努めています。	利用開始時に、利用者の基本情報を聴取する際、家族から馴染みの人や場所について聴取し把握している。正月・お盆の一時帰宅、年賀状の返信、利用者の元職場同僚のお見舞いには、居室でゆっくり雑談してもらうなど、馴染みの人と場の関係を継続出来るよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	起床時や就寝時に声を掛け合われたり、食事時の会話や行動に相手を気遣う場面や食後も、ソファへ移動され世間話やテレビやDVDを見ながら一緒に笑い合ってる姿など良い雰囲気や関係を垣間見たりします。一人1人が孤立せず安心して共同生活を送れるように心掛けています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心配事が出来た時は些細な事でも連絡相談して頂くように伝えていきます。以前、入院され退去された御家族様から「今度は、母をお願いしたい」と申込みをして頂きました。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や食事の時間、外出時など日々の会話や表情、態度から気持ちや状態を把握する様心掛け、必要な場合は、居室などでゆっくりとお話しを伺い、気になる事、不安な事、悩み事をくみ取る事が出来る様に努めています。内容によっては、御家族様に協力を仰ぐ事もあります。	職員は利用開始時に、本人家族などから生活に対する意向を聴いている。目薬点眼を頻回に訴える利用者にも適切に対応し、日々の会話、行動などから意向の把握に努め、家族面会時に話を聴く、利用者からも居室で話を聴き、一人ひとりの希望、意向の把握に努め本人本位の支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居者様一人1人に職員担当を決め、個別シートで過去の暮らしぶりをひも解き、繰り返し語られる事柄を改めて御家族に尋ねている。買い物やドライブ等で外出の際には、本人に尋ね馴染みの場所や自宅の前を通る機会を作ったりしています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様には、それぞれの希望や有する力に合わせて一日を過ごして頂いています。その中で普段と違う言動や気になった事があれば、業務日誌や個人記録に書くことで情報を共有しあい、それぞれが感じた小さな変化をつなぐ事により、早期に、変化に気づくことが出来ると思心掛けています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自宅へ帰りたくと希望されている御入居者様、御家族様との外出を楽しみにされている方には、定期的に行ってもらえるように御家族様へ協力を仰ぎ計画書を作成している。帰園後の様子は、必ずその都度、面会時に報告をするようにしている。	担当制を取り、本人や家族などの希望や意向を把握し、職員のアドバイスを添え反映させながら、本人本位のその時点で添った一人ひとりの具体的な計画を作成している。モニタリングは、3~6ヶ月で見直している。利用者の状態変化時には、状況に合わせて見直し、家族などへ報告し、了承を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や担当職員や他職員からの気づきをもとに、月1回のミーティングで意見やそれに伴うアイデア等の意見を出し合い、話し合った結果をもとに見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所にあたり御本人様の様子、今までの生活やこれからの生活に関する事を、利用されていた小規模のスタッフや御家族様と相談の上、認知症専門医へ主治医の変更をお願いし、現在も同行受診を行っています。歯科が必要な方には、訪問歯科を利用して頂き、髪を切りたいと希望があれば訪問美容も利用している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の元区長さんが遊びに来られ同じ町内から嫁がれた方や嫁いで来られた方々と話され、なじみの名前が出て、時間が経つのも忘れられるほど話が弾んでました。チューリップの球根を今年も頂き、皆様と一緒に植える事が出来ました。民生委員の方から健康体操へ声を掛けて頂き参加し楽しむ事が出来ました。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は御家族様の意向を尋ね、協力病院を希望された場合、職員が付き添い受診を行っている。御家族様に対応される時は、バイタル表と介護経過表を持参して受診して頂いている。必要と思われた場合、認知症・皮膚科・眼科など専門医の受診を相談することもある。	主治医は家族の意向を尋ね、協力医の希望が多い。かかりつけ医や協力医が往診している。受診時は家族、職員が付き添っている。市街の他科や専門医受診は基本的に家族付き添いとしているが、職員も付き添うなど、利用者が常に適切な医療を受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りの中で気づいた事は、看護師も含めて話し合いをしている。排便の薬は必ず申し送りを行い調整に努め、申し送りノートを活用して情報や気づきを職員間で共有出来る様に取り組んでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、病院の地域連携と密に連絡を取り退院の時期やその後の事などを御家族様と話し合いを行っている。医療介護連携懇親会や病院開催の研修会へ参加し関係作りを心掛けている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書において重度化した場合の対応に係る指針の説明を行っている。重度化や終末期について、尋ねられた時は施設での対応を御家族様へ話している。主治医と連携を取りながら御本人・御家族様の意向に沿えるよう、話し合い情報を共有し支援に取り組みたい。	重度化や終末期のあり方は、事業所の対応方針があり、明文化している。入所時に説明し了承を得ている。段階を得て重度化や終末期について尋ねられた時は、最大の対応を家族などへ話し、意向を大切に、主治医、かかりつけ医、職員、関係者で話し合い、合意を図り方針を共有し支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、管理者及び准看護師へ報告行い対応している。又、往診が可能であれば往診をお願いしている。10月よりAEDを設置し使い方の講習会をおこなっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火避難訓練及び通報訓練を実施している。内1回は、消防署との合同訓練（今回H30、3月予定）を行っている。10/30日中の防火避難訓練を行った。運営推進会議のメンバーの方々にも声掛けを行っている。11月には法人本体の消火訓練にも参加し体験をして頂いた。	マニュアルを作成し、年2回の内1回は消防署の協力を得て消火避難訓練を行っている。昨年3月は運営推進会議の日に行い地域との連携の声掛けとした。夜間想定も実施し法人本体での自主訓練も行っている。非常用の食品、飲料水、他の備品も準備し、全職員に周知している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬を持った声掛けを行い、居室に入室する際は、必ず声を掛け、不在な時は、事前に承諾を得るようにしている。誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けているが、おかしいと思った時は、お互い注意し合うようにしている。	尊厳を念頭に声掛けなど行い、利用者一人ひとりのプライバシーの確保に努めている。言葉かけや対応など研修し理解を深めている。管理者は気づきなど話し職員の意識向上を図っている。守秘義務も理解している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな些細な事でも、希望や気持ちを表す事が出来るような会話を心掛けている。希望があれば、可能な限り叶えられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、強要するのではなく、その時、行われている事や関心を持たれた事などを優先している。入眠時間など、一人1人のペースを大事にし、対応を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を6名の方が利用されています。顔馴染みとなられ、自らの希望を美容室の方に伝えられ、要所所で会話をしながら、切られています。季節により衣替えを共に行い、足りない物は、御家族様へお願いをしたり、買い物へ共に出掛けたりしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の材料によって、皮むき・もやしの根取りを手伝って頂き、おやつは、ホットプレートやたこ焼き器でのおやつ作りを共に行い会話を楽しむ日もあります。テーブル拭きやお茶を入れるお手伝いをお願いしたり、時には自ら、お声を掛ける前にして頂いているときもあります。	職員と利用者は、一緒に準備し片付けを行っている。職員は同じ一品を添え、同じテーブルでさりげなく介助しながら、話題を明るくして食べている。献立、栄養バランス、好みへの工夫もし、楽しい食卓への支援づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックを行い、献立・食材配達サービスを使用することで、栄養が偏らないようにしている。食事を提供する際は個々にあわせ食べやすいように刻み・ミキサーやトロミ等で対応し、又、食べやすい食器やテーブル等の検討も行いお弁当プレートや強度の強い滑り止めトレイを使用するなど工夫を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行っている。磨き残しがあれば一部介助も行い、清潔保持に心掛けている。又、夜の義歯保管時に洗浄剤を使用し、歯ブラシ・コップの定期的な消毒も行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間チェックを行い、3時間以上間隔が開いた時は声掛けし、間に合わないという事態にならないよう心掛けている。一人1人の排泄の状態を見ながら、パットの変更や紙パンツ・布パンツへの移行など柔軟な対応を行っている。	排泄時間のチェックを行い、動きなどでサインを把握し、3時間以上の間隔があくときはそっと声掛けし、個別にトイレ誘導を行っている。一人ひとりの状態に合わせて、パットの大きさなど、家族などと話し合い柔軟に対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクの時間などに水分摂取や運動などが必要であり大切な事をお話しし、皆様の意志にてそれらを少しでも行って頂けるように促している。便秘が2日以上続いたり、下剤により便がゆるくなった時など、下剤の数を調整して対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、1対1で対応し、他の目を気にせずゆっくり入れるようにしている。入浴タイミングは、本人様の状態を見ながら声かけをして、午後が良いと言われる方には午後に入って頂く等、出来るだけ希望に添える様に心掛けている。時には、入浴剤や季節によって、ゆず・しょうぶなどを使用している。必要な時は、足浴も行っている。	毎日、希望入浴の対応をしている。1日おきが多く週3回が殆んどである。入浴拒否者はいない。個別に湯を準備し、時には入浴剤、季節によって菖蒲、柚子湯など楽しんでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間の状況、その時の体調や個々の生活習慣も踏まえて、日中、ソファやベッドでの午睡や早めの就寝の声掛けを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人1人の薬の用法や副作用は、すぐに確認出来る様にファイルに綴じている。服薬チェック表を作成し、服用前に必ず日付・名前・本人の確認を行う事により誤薬を防ぎ又は飲み忘れがないように服用後の空袋のチェックも行っている。当日の下剤の変更については、排泄チェック表に記載するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族よりお預かりした好みのお菓子を菓子器に入れて差し上げます。「ここに又入れておいてね。」と空の菓子器を持って来られる姿をほほえましく思います。それぞれがお好きなものを周囲の方へ配慮しながら召し上がって頂く事で、自分だけのひとときを楽しむという満足感を感じられるように思います。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	図書館や散髪など御本人の希望に沿った外出支援を行っています。又、日常的に施設の買い物にも、声を掛け一緒に出かけます。その日だけの地域のお祭りへも、積極的に出掛けられる様に心掛けています。御入居者様からは「近所に住んどうたけど初めて行ったよ!」と喜びの声を頂いています。	暖かい日には毎日散歩する。家族との外食も楽しむ。買い物も週1回は出掛け、家族の協力も良くミニドライブにも出かけている。また神社参詣、イルミネーション見学や清水山参りなど、一人ひとりに添った家族の協力を得ながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で、お財布を持たれている4名の方は、家族管理の元少額所持して頂いています。その他の方は、外出時御家族様より預かり、ほしい物を買物して頂ける様にしています。購入後は、御家族様へ、御本人様の様子も含め報告を行っています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お知り合いの方から、電話がかかってきて、うれしそうに電話口へ向かう姿やお話しされた後の笑顔はとても晴れやかです。年賀状や暑中お見舞いなどは、文章や挿し絵も御本人様に書いて頂き、中には宛名まで書かれる方もおられます。御家族様へ、電話をかけてほしいとの申し出があれば、すぐに対応しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなで作成した、ちぎり絵を壁や玄関に飾っている。掲示板に、レクの時間に書かれた習字や塗り絵や言葉など掲示し、共用空間は、広くゆっくりとしたスペース取り、車イスでの移動もスムーズに出来るようにしている。細目に温度調節を行い、フロアに植木鉢を置き居心地良く過ごせるように心掛けている。	共用空間は利用者に適した位置にソファを置き、会話が続きように希望に添い、移動したり機能的に配置している。共同作品のちぎり絵や、習字、塗り絵が掲示され和やかさがある。季節の花があり、昔懐かしの曲をかけたり、職員の声もよく、遮光温度にも配慮、居心地よくと工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースのみに限らず、施設内の所々に自由に過ごして頂けるように畳コーナーを配置している。玄関に長椅子や畳コーナーを置いており、面会あとの見送り時に、腰を掛け話をされる姿や一人で外を眺めたりと活用して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた椅子やテーブルを持って来て頂いたり、面会時に落ち着いて話が出るよう座布団を持って来られている。御家族の写真を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。御本人様の状況によりベッドやタンスの位置にも配慮している。	馴染みのテーブル、椅子、家族写真、カレンダー、手鏡、化粧品、植木鉢、小物など持ち込まれ、ドアには職員手作りの小物の花や小さな帽子がさりげなく飾られている。居室に適した配慮があり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるように、居室やトイレにナースコールを設備し、フロア・廊下・トイレ・お風呂場・脱衣所には手すりを付け、玄関には長椅子を置き靴の脱ぎ履きに配慮している。目が不自由な方が、昼夜安心してトイレへ行けるように、御本人様が見えやすい黄色の向日葵の折り紙を自室よりトイレまで貼り対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない